

令和7年度版 中学校『国語』

移行資料

■資料 1

文法・言葉・漢字の指導に関する移行資料……………2

■資料 2

情報の扱い方の指導に関する留意点……………8

■資料 3

古典指導に関する留意点……………8

■資料 4

漢字配当に関する移行資料……………9

■補充教材

漢字1 熟語の構成……………12

思考のレッスン1 意見と根拠……………14

光村図書

資料1 文法・言葉・漢字の指導に関する移行資料

資料作成のねらい

- 1. 本資料は、令和7年度から新たに光村図書『国語』が使用される学校において、文法・言葉・漢字の指導が円滑に移行できるよう作成したものです。
- 2. 本資料で取り上げた主な内容は、次の通りです。
 - ①これまでの教科書と光村図書『国語』の、文法・言葉・漢字の内容と系統。
 - ②第2学年から、あるいは第3学年から、それぞれ新たに光村図書『国語』をお使いになる場合に、文法・言葉・漢字の指導において留意すべき点。
- 3. 本資料の作成にあたっては、次のことを旨としています。
 - ①これまでの教科書の記述が、同学年の光村図書『国語』よりも詳細で、かつ用語の相違がなければ取り上げない。逆に、光村図書『国語』の文法・言葉・漢字の指導において、これまでの教科書の記述以上のものを扱っている場合には取り上げる。
 - ②主として、教科書本文（光村図書『国語』では〔文法への扉〕〔文法〕、〔言葉〕、〔漢字〕）の記述のみを対象する。指導書（解説書）などの記述については触れない。
 - ③教科書記述の背景にある文法上の学説、よりどころとなる文法上の立場についての解説はしない。また、編集方針の相違などについても触れない。

文法・言葉・漢字指導の移行にあたって

令和7年度版光村図書『国語』

■文法

- 1. 〔文法への扉〕〔文法〕は、文法的事項の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。主として、1年に文論的事項、2年に語論的事項、3年に文法的事項の生かし方・まとめを配列しています。
- 2. 教材構成は、文法に関する親しみやすい課題を設定した〔文法への扉〕を学習の入り口とし、巻末の〔文法〕で理解と確認ができるように配列しています。
- 3. 2年〔文法〕の冒頭に〔一年生の復習〕（P240～241）、3年〔文法〕の冒頭に〔一、二年生の復習〕（P228～229）を示しています。光村図書『国語』での学習事項の確認に活用していただけます。
- 4. 令和3年度版東京書籍『新しい国語』の〔文法〕教材で扱われている事項が、光村図書『国語』では〔言葉〕で扱われていることがあります。

■言葉

- 1. 〔言葉〕は、言葉に関する知識事項等の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。

■漢字

- 1. 〔漢字〕は、漢字に関する知識事項等の基礎・基本を理解させることをねらいとしています。
- 2. 令和3年度版東京書籍『新しい国語』の〔漢字〕教材で扱われている事項が、光村図書『国語』では巻頭〔主体的な学びのために〕で扱われていることがあります。

令和3年度版東京書籍『新しい国語』

■文法・言葉・漢字

- 1. 令和3年度版東京書籍『新しい国語』の〔文法〕〔言葉〕〔漢字〕に収められている文法・言葉・漢字に関する知識事項を中心に抽出しました。
- 2. 『新しい国語』の〔文法〕〔言葉〕〔漢字〕の内容・配列を概観することで、それ以外の教科書が使われている地域から異動されてきた先生も、移行指導を円滑に行えるよう配慮しました。

資料 1-❶ 令和7年度版光村図書・令和3年度版東京書籍

文法・言葉・漢字の内容と系統

移行に際して留意が必要な事項を、 で示しました。「資料 1-❷ 光村〔文法〕〔言葉〕〔漢字〕を指導する際の留意点」をご参照ください。教科書の本文以外（脚注など）で解説された事項には、＊を付しました。

	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 東京書籍
1年	1 言葉の単位 ①文法とは ②言葉の単位 ・文章・談話、段落、文、文節、単語 ＊複合語 2 文の組み立て ①文節どうしの関係 ・主・述の関係―主語、述語、体言、用言 ・修飾・被修飾の関係―修飾語（連用修飾語、連体修飾語） ・接続の関係―接続語 ・独立の関係―独立語 ②連文節 ・並立の関係 ・補助の関係 ③文の成分 ・主語、述語、修飾語、接続語、独立語 ・主部、述部、修飾部、接続部、独立部 ④文の組み立て 3 単語の分類 ①単語の分類 ・自立語・付属語 ・活用の有無 ②品詞 ・動詞、形容詞、形容動詞、名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞、助動詞、助詞 ・品詞分類表 ③体言と用言 ・体言、用言	1 文法とは・言葉の単位 ①文法とは ②言葉の単位 ・文章・談話、段落、文、文節、単語 ＊複合語 2 文の成分・連文節 ①文の成分 ・主語、述語、修飾語、接続語、独立語 ②連文節 ・主部、述部、修飾部、接続部、独立部 ③文節どうしの関係 ・主・述の関係、修飾・被修飾の関係、接続の関係、並立の関係、補助の関係 ＊被修飾語 3 単語の分類 ①自立語と付属語 ・自立語、付属語 ②活用 ③品詞 ・名詞、動詞（補助動詞）、形容詞（補助形容詞）、形容動詞、連体詞（連体修飾語）、副詞（連用修飾語）、接続詞、感動詞、助動詞、助詞 ・体言、用言 ・品詞分類表 4 名詞 ①名詞の種類 ・普通名詞、固有名詞、数詞、代名詞（＊人称代名詞、＊指示代名詞）、形式名詞 ②いろいろな成り立ちの名詞 ・転成名詞、接尾語・接頭語が付いたもの、複合名詞 5 連体詞・副詞・接続詞・感動詞 ①連体詞 ②副詞 ・状態の副詞、程度の副詞、呼応の副詞 ＊擬音語、擬態語 ③接続詞 ・順接、逆接、累加・並立、説明・補足、対比・選択、転換 ④感動詞

	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 東京書籍
2年	1 自立語 ①活用する自立語 ・動詞―他動詞、自動詞、補助動詞 ・形容詞―補助形容詞 ・形容動詞 ②活用しない自立語 ・名詞―普通名詞、代名詞、固有名詞、数詞、形式名詞 ・副詞―状態の副詞、程度の副詞、呼応の副詞 ・連体詞 ・接続詞―順接、逆接、並列・累加、対比・選択、説明・補足、転換 ・感動詞―応答、呼びかけ、感動、挨拶 2 用言の活用 ①活用 ・語幹、活用語尾 ・活用形―未然形、連用形、終止形、連体形、仮定形、命令形 ②用言の活用 ・動詞の活用―五段活用、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用、サ行変格活用 *音便（動詞）―イ音便、促音便、撥音便 *可能動詞の活用 ・形容詞・形容動詞の活用 *音便（形容詞）―ウ音便 3 付属語 ①付属語 ②付属語の種類 ・助動詞 ・助詞―格助詞、副助詞、接続助詞、終助詞	1 用言の活用 ①活用形の種類 ・活用、語幹、活用語尾 ・活用形―未然形、連用形、終止形、連体形、仮定形、命令形 *連用中止法 ②動詞の活用 ・五段活用、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用（カ変）、サ行変格活用（サ変） *動詞の音便―イ音便、促音便、撥音便 ・可能動詞 ・他動詞と自動詞 ③形容詞の活用 *形容詞のウ音便 ④形容動詞の活用 2 助詞 ①助詞の種類 ・格助詞、接続助詞、副助詞、終助詞 3 助動詞 ①意味による分類 ②主な接続による分類
3年	1 文法を生かす ①文法を生かして伝え合う ・文法の知識を生かした推敲のしかた（文節・連文節の対応、意味のまとまり、呼応の副詞） ②文法を生かして読み味わう ・助詞などに着目した文学作品の読み味わい方 2 文法のまとめ ・中学校で学習した文法の練習問題	1 曖昧な文・分かりづらい文 ①曖昧な文・分かりづらい文 ②かかり受けが誤っている文 ③分かりやすい文 2 文法のまとめ

言葉		
	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 東京書籍
1年	1 音声の仕組みや働き ・母音、子音 ・音の高さ・強さ―アクセント、イントネーション、強調 2 指示する語句と接続する語句 ・指示する語句（こそあど言葉） ・接続する語句―順接、逆接、並列・累加、対比・選択、説明・補足、転換 3 ささまざまな表現技法 ・比喩（たとえ）―直喩、隠喩、擬人法 ・反復 ・倒置 ・体言止め ・省略 ・対句 4 方言と共通語 ・方言 ・共通語 *消滅危機言語	1 音声の働きや仕組み ・音声の働き―音声、母音、子音 ・音節―促音、撥音、長音、拗音 ・アクセントとイントネーション 2 接続する語句・指示する語句 ・接続する語句の働き ・指示する語句（こそあど言葉）―近称、中称、遠称、不定称 3 方言と共通語 ・方言と共通語 ・方言の変化とこれから 4 語の意味と文脈・多義語 ・文脈の働き ・多義語
2年	1 類義語・対義語・多義語 ・類義語 ・対義語 ・多義語 2 敬語 ・敬語の働き ・敬語の種類―丁寧語、尊敬語、謙譲語（丁重語）、（美化語） ・敬語の組み合わせ 3 話し言葉と書き言葉 ・話し言葉 ・書き言葉	1 話し言葉と書き言葉 ・話し言葉と書き言葉 ・それぞれの長所と気をつけるべきこと 2 敬語 ・尊敬語 ・謙譲語 ・丁寧語 *丁寧語、美化語 3 類義語・対義語 ・類義語 ・類義語の意味の違い ・対義語 ・対義語の種類
3年	1 相手や場に応じた言葉遣い ・相手や場に応じた言葉遣い ・相手や場に応じた表現の選び方 2 和語・漢語・外来語 ・和語（大和言葉） ・漢語 ・外来語 ・混種語 3 慣用句・ことわざ・故事成語 ・慣用句 ・ことわざ・故事成語 4 時代や世代による言葉の変化（語彙を豊かに） ・時代による言葉の変化 ・世代による言葉の変化 ・相手に合わせて言葉を選ぶ	1 和語・漢語・外来語 ・和語・漢語・外来語の区別 ・和語・漢語・外来語の特徴 2 間違いやすい敬語 ・尊敬語と謙譲語の取り違い ・過剰な敬語 3 連語・慣用句 ・連語（コロケーション） ・慣用句 4 言葉の移り変わり ・時代による言葉の変化―音声の変化、文法の変化、語彙の変化 ・身近な言葉の中に見られる変化

漢字		
	令和7年度版 光村図書	令和3年度版 東京書籍
1年	1 漢字の組み立てと部首 - 漢字の組み立て―へん、つくり、かんむり、あし、たれ、によろ、かまえ - 漢字の部首 2 漢字の音訓 「音」について 「訓」について - 複数の読み方をする熟語 3 漢字の成り立ち - 象形、指事、会意、形声 - 国字 *六書―象形、指事、会意、形声、転注、仮借	1 活字と書き文字・画数・筆順 - 活字と書き文字―明朝体、ゴシック体、教科書体 - 画数 ・筆順 2 音読み・訓読み - 漢字の音読み ・漢字の訓読み 3 漢字の部首 - 部首とその意味―偏、旁、冠、脚、繞、垂、構 - 形の変化 ・紛らわしい部首 4 漢字の成り立ち - 六書―象形、指事、会意、形声、転注、仮借 - 国字
2年	1 熟語の構成 - 二字熟語の主な構成 ・三字熟語の主な構成 - 四字以上の熟語の主な構成 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 - 同じ訓をもつ漢字―同訓異字 - 同じ音をもつ漢字―同音異義語 3 送り仮名 - 活用のある語 - 名詞 - 副詞・連体詞・接続詞 *原則とは異なる送り仮名	1 形の似た漢字 - 部首だけが違う漢字 ・部首の意味 - 全体の形が似た漢字 ・一画の違い 2 漢字の意味 - 似た意味の漢字 ・反対の意味の漢字 - 漢字による意味の違い ・熟語による意味の違い 3 同訓異字 - 用言の同訓異字 ・体言の同訓異字 4 同音異義語 - 共通する漢字を持つ同音異義語 - 共通する漢字を持たない同音異義語
3年	1 熟語の読み方 - 音と音、訓と訓 - 重箱読み、湯桶読み - 特別な読み方―熟字訓 2 漢字の造語力 - 翻訳語 - 新しい語 3 漢字のまとめ 3年間で学習したこと	1 熟語の構成・熟字訓 - 熟語の構成 ・三字熟語 ・熟字訓 3 四字熟語 - 四字熟語の構成 - 数字を含む四字熟語・故事成語 4 送り仮名 - 活用のある語 ・活用のない語 5 紛らわしい漢字 - 形・音の類似 ・三字以上の組 6 間違えやすい言葉 - 読み間違えやすい言葉 ・書き間違えやすい言葉

資料 1-②

光村【文法】【言葉】【漢字】を指導する際の留意点

(1) 1年（東京書籍：以下T）→2年（光村図書：以下M）

M 1年【文法2 文の組み立て】の内容について

- Mでは、文節どうしの関係（主・述の関係等）を提示したうえで、文の成分（主語・述語等）を解説しています。Tでは、まず文の成分を挙げた後、文節どうしの関係を解説しています。解説の順序は異なりますが、各事項の内容はおおむね共通しています。
- Mでは、接続詞の働きの一つとして「並列・累加」を取り上げていますが、Tでは、これと同じ働きを「累加・並立」としています。
- Mでは、「独立語」についても、「独立の関係」を立てて解説していますが、Tでは「独立の関係」は立てていません。

以上の学習内容については、M 1年のP 246～250をご参照ください。2年【文法への扉1】（P 31）の学習時に、[一年生の復習]（P 240～241）を合わせてご指導いただき、その中で触れていただくなどのご配慮をお願いいたします。

(2) 1・2年（T）→3年（M）

M 2年【文法1 自立語】の内容について

- 「名詞」の基本的な働きについての解説内容はおおむね同じですが、Tでは、名詞の成り立ち（「転成名詞」「複合名詞」など）の解説をしています。Mでは、名詞の成り立ちについては取り上げていません。
- Mでは、副詞の働きの一つとして「呼応の副詞」を取り上げていますが、Tでは、これを「陳述の副詞」「叙述の副詞」とも表現しています。
- Mでは、接続詞の働きの一つとして「並列・累加」を取り上げていますが、Tでは、これと同じ働きを「累加・並立」としています。

M 2年【文法3 付属語】の内容について

- Mでは、助動詞「た」の働きの一つとして「想起」を取り上げていますが、Tでは取り上げていません。
- Mでは、「ようだ・ようです」の働きの一つとして「例示」を取り上げていますが、Tでは取り上げていません。
- Mでは、「ようだ・ようです」の働きの一つとして「比喩」を挙げていますが、Tでは、これを「たとえ」としています。内容はおおむね同じです。
- Mでは、「そうだ・そうです」の働きの一つとして「推定・様態」を挙げていますが、Tでは、これを「様態」としています。内容はおおむね同じです。

この学習内容については、M 2年のP 251～256をご参照いただき、適宜ご指導ください。

■漢字

M 2年【漢字1 熟語の構成】の内容について

- 熟語の構成については、Mでは2年で学習し、Tでは3年で学習します。

この学習内容については、本資料P12～13の補充教材、またはM 2年P 58～59をご利用のうえ、適宜ご指導ください。

M 2年【漢字3 送り仮名】の内容について

- 送り仮名の法則については、Mでは2年で学習し、Tでは3年で学習します。なお、「送り仮名」は、「学習指導要領解説」の中では、学習事項として示されていません。

この学習内容については、M 2年のP 230～231をご参照いただき、適宜ご指導ください。

資料2 情報の扱い方の指導に関する留意点

「情報の扱い方に関する事項」の指導においては、次の点にご留意ください。

1年（T）→2年（M）、1・2年（T）→3年（M）

M 1年【思考のレッスン1 意見と根拠】の内容について

- MとTでは、用語の定義や使い方が異なります。Mでは、「根拠」を「意見の正しさや有効性を証明するもの」（客観的で正確な事実）としたうえで、「意見」と「根拠」の関係を解説しています。Tでは、「根拠」を「どうしてそう考えるのかの説明」としたうえで、「考え」（「考え」はさらに「推測」と「意見」に分かれる）と「根拠」の関係を解説しています。
- Mでは、「意見」と「根拠」がどのように結び付くかの説明を「理由づけ」としています。Tでは、「根拠」を挙げて「結論」を述べることを「論証」としており、「理由づけ」という用語は使っていません。

この学習内容については、本資料P14～15の補充教材、またはM 1年P 138～139をご利用のうえ、適宜ご指導ください。2年【思考のレッスン1】（P130～131）、3年【意見を聞き、適切さを判断する】（P29）などとの関連指導が可能です。

資料3 古典指導に関する留意点

古典指導においては、次の点にご留意ください。

1・2年（T）→3年（M）

- Mでは、漢詩における対句の法則を取り上げていますが、Tでは触れていません。

この学習内容については、M 2年P164【律詩について】をご参照いただき、適宜ご指導ください。

資料4 漢字配当に関する移行資料

資料作成のねらいと解説

令和7年度版光村図書『国語』（以下M）の「新出漢字」は、これまでお使いになっていた教科書（以下T）での配当学年とは異なる場合があります。

本資料は、漢字指導の円滑な移行を図るために、MとTの配当学年が異なる漢字を示しています。ご活用の際には、以下の点について、ご配慮をお願いいたします。

1. 次表（表1・表2）は、提出学年の移動により、「新出漢字」として学習する機会がなくなる漢字を示したものです。次表に掲げる漢字は、次の3種です。

- ① Tで2年、Mで1年に提出のもの。
- ② Tで3年、Mで1年に提出のもの。
- ③ Tで3年、Mで2年に提出のもの。

Mを第2学年から使い始める場合は、表1の①②の漢字について、また、Mを第3学年から使い始める場合は、表2の②③の漢字について、適宜ご指導ください。（例えば、表1の「威」は、Tでは2年で「新出漢字」として提出していた漢字ですが、Mでは1年に提出しています。）

≫「漢字の確認」（練習問題）はこちら

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/common/07c-ikousochi>



2. 上記1.とは逆に、Tで既習の漢字がMでは「新出漢字」として提出されている場合があります。その場合は重複して学習することになりますので、ご指導の際はご留意ください。

表 1 | 1 年（東京書籍）→ 2 年（光村図書）

漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年	
	令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光
威	2	1	擬	3	1	搾	2	1	織	2	1	鉢	2	1	娘	2	1
椅	3	1	吉	2	1	錯	2	1	疎	2	1	髮	2	1	銘	3	1
彙	3	1	喫	3	1	咲	3	1	訴	3	1	伐	3	1	厄	2	1
維	3	1	丘	3	1	斬	3	1	双	3	1	帆	3	1	躍	2	1
陰	3	1	距	3	1	旨	3	1	贈	3	1	販	3	1	諭	2	1
韻	3	1	恭	3	1	刺	2	1	即	2	1	範	3	1	揚	2	1
援	2	1	脅	2	1	施	3	1	促	2	1	繁	2	1	揺	3	1
鉛	2	1	菌	2	1	脂	2	1	沢	3	1	披	3	1	踊	2	1
旺	3	1	琴	3	1	餌	3	1	奪	2	1	扉	3	1	窯	2	1
奥	2	1	偶	3	1	斜	2	1	棚	2	1	尾	2	1	謡	3	1
俺	2	1	隅	3	1	遮	3	1	胆	3	1	描	2	1	抑	3	1
苛	3	1	繰	2	1	蛇	3	1	壇	2	1	猫	3	1	慮	2	1
渦	2	1	茎	2	1	狩	3	1	恥	2	1	瓶	2	1	了	3	1
暇	2	1	恵	2	1	柔	2	1	蓄	2	1	腐	2	1	涼	2	1
靴	2	1	掲	2	1	塾	2	1	超	2	1	覆	2	1	瞭	2	1
稼	2	1	溪	2	1	遵	3	1	澄	2	1	払	3	1	累	3	1
介	2	1	詣	2	1	召	2	1	墜	3	1	沸	2	1	靈	2	1
戒	2	1	稽	2	1	称	2	1	訂	2	1	噴	3	1	齡	3	1
壊	2	1	迎	2	1	紹	2	1	摘	2	1	壁	3	1	麗	2	1
隔	2	1	肩	2	1	粧	2	1	唐	2	1	癖	2	1	劣	2	1
嚇	3	1	嫌	2	1	殖	2	1	陶	2	1	蔑	3	1	露	2	1
顎	2	1	鍵	3	1	唇	3	1	塔	2	1	胞	2	1	籠	2	1
括	3	1	懸	2	1	審	2	1	閬	3	1	砲	2	1			
喝	3	1	鼓	2	1	尽	2	1	胴	2	1	蜂	2	1			
渴	3	1	肯	2	1	衰	2	1	峠	2	1	忙	3	1			
缶	3	1	絞	3	1	随	2	1	捻	3	1	房	2	1			
陷	2	1	項	3	1	据	2	1	霸	2	1	肪	2	1			
貫	2	1	醇	2	1	杉	2	1	陪	3	1	紡	3	1			
棺	3	1	婚	2	1	裾	3	1	伯	3	1	頬	2	1			
還	2	1	魂	2	1	斉	2	1	拍	2	1	磨	2	1			
環	2	1	挫	3	1	斉	2	1	泊	3	1	抹	3	1			
企	2	1	采	3	1	析	3	1	迫	2	1	漫	2	1			
奇	2	1	索	3	1	戚	3	1	漠	2	1	魅	3	1			

表 2 | 1・2 年（東京書籍）→ 3 年（光村図書）

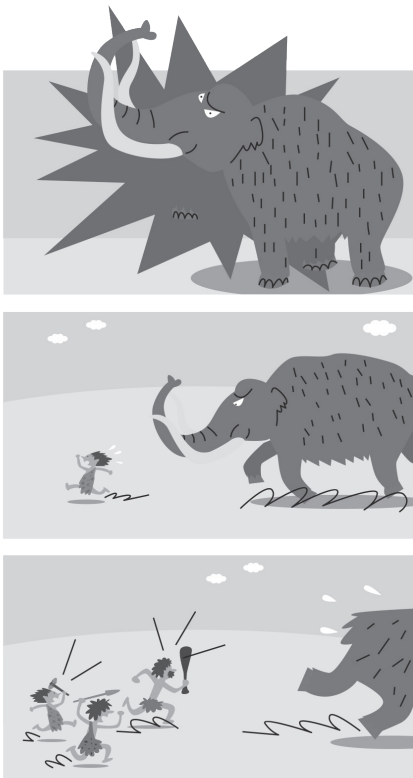
漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年		漢字	初出学年	
	令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光		令3 東	令7 光
嵐	3	2	朽	3	2	咲	3	1	羨	3	2	鍋	3	2	又	3	2
椅	3	1	白	3	2	傘	3	2	踐	3	2	尿	3	2	抹	3	1
彙	3	1	距	3	1	斬	3	1	訴	3	1	捻	3	1	魅	3	1
維	3	1	御	3	2	旨	3	1	双	3	1	陪	3	1	岬	3	2
逸	3	2	恭	3	1	伺	3	2	藻	3	2	伯	3	1	冥	3	2
姻	3	2	凝	3	2	社	3	2	贈	3	1	泊	3	1	銘	3	1
陰	3	1	琴	3	1	施	3	1	遜	3	2	伐	3	1	茂	3	2
韻	3	1	僅	3	2	餌	3	1	妥	3	2	帆	3	1	癒	3	2
凹	3	2	吟	3	2	漆	3	2	耐	3	2	汎	3	2	唯	3	2
旺	3	1	惧	3	2	遮	3	1	滯	3	2	販	3	1	裕	3	2
佳	3	2	偶	3	1	蛇	3	1	沢	3	1	煩	3	2	憂	3	2
苛	3	1	隅	3	1	狩	3	1	拓	3	2	範	3	1	揺	3	1
華	3	2	窟	3	2	珠	3	2	託	3	2	披	3	1	謡	3	1
餓	3	2	薰	3	2	充	3	2	胆	3	1	猫	3	1	抑	3	1
該	3	2	憩	3	2	俊	3	2	致	3	2	賓	3	2	沃	3	2
殻	3	2	隙	3	2	潤	3	2	稚	3	2	膚	3	2	羅	3	2
嚇	3	1	圈	3	2	遵	3	1	緻	3	2	弘	3	1	酪	3	2
岳	3	2	鍵	3	1	肖	3	2	秩	3	2	雰	3	2	竜	3	2
括	3	1	股	3	2	尚	3	2	室	3	2	噴	3	1	慮	3	1
喝	3	1	弧	3	2	彰	3	2	鑄	3	2	弊	3	2	了	3	1
渴	3	1	雇	3	2	淨	3	2	嘲	3	2	壁	3	1	陵	3	2
缶	3	1	娛	3	2	剌	3	2	陳	3	2	蔑	3	1	療	3	2
勘	3	2	絞	3	1	壤	3	2	墜	3	1	舗	3	2	倫	3	2
喚	3	2	項	3	1	唇	3	2	漬	3	2	峰	3	2	累	3	1
敢	3	2	綱	3	2	紳	3	1	邸	3	2	忙	3	1	齡	3	1
棺	3	1	衡	3	2	薪	3	2	滴	3	2	紡	3	1	曆	3	2
鬼	3	2	獄	3	2	髓	3	2	哲	3	2	貌	3	2	恋	3	2
騎	3	2	恨	3	2	杉	3	1	撤	3	2	謀	3	2	浪	3	2
擬	3	1	唆	3	2	凄	3	2	填	3	2	勃	3	2			
菊	3	2	鎖	3	2	析	3	1	搭	3	1	奔	3	2			
喫	3	1	采	3	1	戚	3	1	匿	3	2	凡	3	2			
丘	3	1	索	3	1	占	3	2	凸	3	2	盆	3	2			

漢字 1

熟語の構成

漢字は一字一字が意味をもつ表意文字であり、組み合わせることによって、いろいろな意味の語ができる。このように二字以上の漢字を組み合わせでできた語を、**熟語**という。熟語の構成には、似た意味の漢字を重ねたものや、対になる意味の漢字を重ねたものなどがある。

強⇨大 強⇩弱 強⇩敵



二字熟語の主な構成

漢字一字の言葉の組み合わせ。 ▼衣 食 住 ……衣+食+住	上中下 松竹梅 など
漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。 上に打ち消しの意味の「不・無・非・未」や、下に「的・性・化」などが付いたものも多い。 ▼大 成 功 ……大+成功 専 門 家 ……専門+家 不安定 ……不+安定 絶 对 的 ……絶対+的	初対面 肖像画 表彰式 無意味 可能性 など

四字以上の熟語の主な構成

漢字一字の言葉の組み合わせ。 ▼春夏秋冬……春+夏+秋+冬	花鳥風月 など
二字熟語の組み合わせ。 ▼課外 授業 ……課外+授業	国際交流 など
漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。 ▼大雨 注意 報 ……大雨+注意+報	運転免許証 など

四字熟語の中には、「一進一退」「大同小異」「美辞麗句」など、古くから言いならわされてきたものも多い。

二字熟語の主な構成

意味が似ている漢字の組み合わせ。 ▼拡大……拡(ひろげる)+大(おおきい)	思考・規則 縮小・山岳 搭乗 など
意味が対になる漢字の組み合わせ。 ▼善 悪 ……善(よい)+悪(わるい)	前後・売買 是非・禍福 慶弔 など
主語と述語の関係。 ▼日 照 ……日が照る	国営・雷鳴 地震・人造 など
下の漢字が上の漢字の目的や対象を示す。 ▼洗 顔 ……顔を洗う 登 山 ……山に登る	開会・造園 遷都・帰郷 就職 など
上の漢字が下の漢字を修飾する。 ▼軽 傷 ……軽い傷 激 増 ……激しく増える	大粒・重責 俊足・猛犬 逆流 など

この他に、「刻々(刻々)」「喜喜(喜々)」など同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

練習問題

・は中学校で学習する音訓

1 次の熟語と同じ構成の熟語をへから選ぼう。

- ① 自我 ② 着色 ③ 国立 ④ 麦芽 ⑤ 師弟
へ雌雄 清浄 日没 兼業 濃霧 姉妹 極上

2 次の○には「不・無・非・未」のいずれかを、□には「的・性・化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

- ① ○経験 ② ○本意 ③ ○秩序 ④ ○常識
⑤ 比較□ ⑥ 有料□ ⑦ 妥当□

3 次の四字熟語の構成を確認し、意味を調べよう。

- ① 東奔西走 ② 喜怒哀楽 ③ 轻挙妄動
④ 疾風迅雷 ⑤ 鯨飲馬食 ⑥ 温厚篤実

新出漢字

59 妄 (モウ)	59 霧 (キリ)	59 彰 (ショウ)	58 弔 (トウ)	58 岳 (ガク)
59 疾 (シツ)	59 秩 (チツ)	59 免 (メン)	58 遷 (セン)	58 搭 (タツ)
59 迅 (ジン)	59 妥 (ダ)	59 雌 (メス)	58 粒 (リユウ)	58 是 (ゼ)
59 鯨 (ケイ)	59 奔 (ホン)	59 净 (ジョウ)	58 俊 (シュン)	58 禍 (カ)
59 篤 (トク)	59 哀 (アイ)	59 没 (ボツ)	58 猛 (モウ)	58 慶 (ケイ)
漢字一覧表		59 兼 (ケン)	59 肖 (ショウ)	



情報
思考のレッスン1
意見と根拠

思考のレッスン2
原因と結果
186
ページ

情報整理のレッスン
比較・分類
52
ページ

■ 根拠とは

意見の正しさや有効性を証明するものを、
根拠という。意見を述べるときには、根拠を
明確に示す必要がある。

「根拠」というのは、「証拠」
のようなものですか。

そのとおり。意見の正しさを
裏つける「証拠」が「根拠」だ。
だから、根拠のない意見や、
根拠が不確かな意見は、信用し
ないほうがいい。



根拠は、意見の信頼性を高めるためにある。
だから、人によって異なる考えではなく、誰
が見ても変わらない**事実**を示すことが大切だ。

■ 意見と根拠の結び付き

根拠を示すときは、その根拠が意見とどの
ように結び付くのかを説明する必要がある。
これを**理由づけ**という。無理のない理由づけ
は、意見の説得力を高める。

根拠 猫は、散歩をさせなくてもよい。

理由づけ 仕事で家を空けることが
多い探偵は、毎日散歩をさせるの
が難しいから。

意見 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

あなたの意見に納得した。
猫を飼うことを検討しよう。

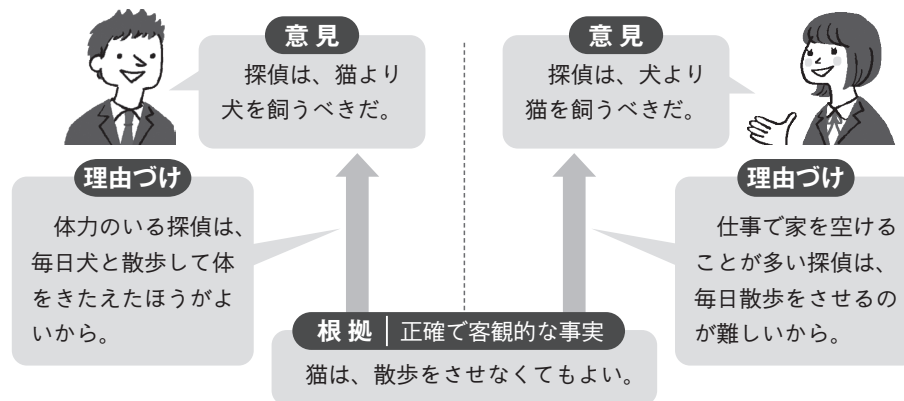


意見を聞いたり、伝えたりする
ときには、次の点を確認しよう。

チェックポイント

- ✓ 根拠が示されているか。
- ✓ 正確で客観的な事実を根拠にしているか。
- ✓ 理由づけに無理はないか。

「理由づけ」によっては、同じ「根拠」から、
異なる「意見」が導かれることもある。



① 根拠がないと……

意見 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

これだけでは、聞く価値の
ある意見か判断できない。

② 「考え」を根拠にすると……

意見 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

根拠 猫のほうが、かわいい。

「犬のほうが、かわいい」と
思っている人は説得できない。

③ 「事実」を根拠にすると……

意見 探偵は、犬より猫を飼うべきだ。

根拠 猫は、散歩をさせなくてもよい。

確かにそうだ。でも、なぜ
それが、猫を飼う理由に？



問題1 ▼ 次の文章には、適切な
根拠が示されているか。なぜそ
う考えたかも合わせて答えよう。
① 伝統文化は大切にすべきだ。
なぜなら、とても大事なもの
だからだ。
② 文化祭の学級展示について、
クラスでアンケートを取った
ところ、三十五名中、三十名
が、「動画を作って発表した
い」と答えた。このクラスの
展示は動画にするべきだ。
③ 敬語を使う必要はない。尊敬
の気持ちは、敬語を使わなく
ても、自然に相手に伝わると
思うからだ。

問題2 ▼ 次に示した意見と根
拠を結び付ける理由づけを考え
よう。

① 「意見」 私は、ごみ袋に名前
を書くことに賛成だ。

「根拠」 この制度を取り入れ
たN市では、ごみが前の年
より八パーセント減った。

② 「意見」 私たちは、もっと基
礎体力を強化すべきだ。

「根拠」 先週の試合では、後
半、疲労でプレーが乱れ、
相手チームに逆転された。

新出漢字

138 頼
たのむ
たよる

138 偵
テイ

139 礎
ソ
いす

漢字の
練習

